

第3期八戸ポータルミュージアム中期運営方針
－ 未来を創ろう 2030 －

令和3年3月
八戸市

目次

1. これまでの成果
2. 未来を創ろう 2030
3. 実践テーマと取り組みスタイル
4. デザインテーマごとの事業プラン
5. 評価方法と変化への対応

八戸ポータルミュージアムは、平成23年2月11日に開館して以来、「はっち」の愛称で親しまれ、多くの市民に利用されると共に、八戸の歴史や文化を再評価し、地域に潜在する価値を活かした新たな魅力と賑わいを生み出し、中心市街地の活性化にも寄与してきました。また、平成30年7月には、八戸まちなか広場「マチニワ」が加わり、より多彩な活動が可能となりました。

「はっち」が開館して10年。市民の手による観光展示や多種多様な活動が、日常的に目に見える形で繰り広げられる場が身近にあることを通して、地域に暮らす私たちはお互いを認め合い、まちへの想いを交換し合いながら、シビックプライドを育んできました。

これからの10年。開館時に掲げた「新たな交流と創造の拠点として、賑わいの創出や、観光と地域文化の振興を図ることで、中心市街地と八戸市全体の活性化を目指す」というミッションを引き継ぎ、これまでの活動をベースに、10年後の理想の未来に向けて、引き続き市民による市民のための施設として活動していきます。

※都市に対する市民の誇り。愛着に留まらない、当事者意識に基づく自負心。



これまでの成果 — 10 年間ではっちが生み出したこと —

●新しい市民活動・文化創造の拠点の誕生

はっちは、開館以来、気軽に集い、仲間と交流する場はもちろん、イベントスペースや文化芸術の展示・発表等の場として活用されるなど、多様な市民活動の場としてその活動を後押ししてきました。また、多くの市民の参加を得ながら、人、伝統、文化などの地域資源にこれまでにない視点から光を当てるアートプロジェクトを開館前から多数実施し、市民がアーティストの創造的なアイデアや実践に触れる機会を通して、地域の活力を創出してきました。



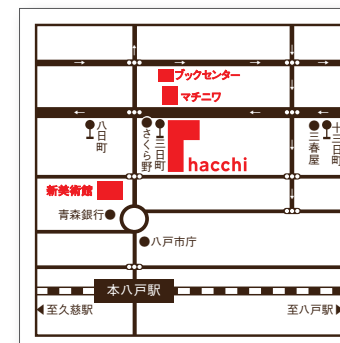
多彩な市民活動



市民参加型のアートプロジェクト

●中心街再生のきっかけと可能性

平成となってからの中心街は、大型商業施設の撤退が相次ぐなど、低迷傾向が続いていましたが、市民が日常的に集い、活動する新たな場としてのはっちの開館が、民間投資による都市機能整備の誘引となるなど、近年の地価上昇に象徴される中心街再生に向けた起爆剤となりました。また、はっちを先駆けとした、八戸ブックセンター、八戸まちなか広場マチニワ、美術館などの集積は、都市の魅力を高め、来街を促すことで更なる民間投資を呼び込む、中心街再生の可能性であり続けています。



中心街の公共文化施設の整備



民間施設の増加

●シティプロモーションに貢献

はっちは、その活動と発信力により多方面より高い評価を得て、はっちのみならず八戸市の知名度やイメージアップへ大きく貢献しました。全国各地からの多数の視察は、全国的なはっちの知名度の高さの表れであり、まちづくり等の活動に対する数々の受賞歴は、はっちの取組に対する評価の高さを物語っています。



はっちの活動への受賞



地元小学生の社会科見学も増加

未来を創ろう 2030 —これまでの10年の先に紡ぐ新たな10年—

中期運営方針の事業構成

開館以来のミッションのもと、次の10年間を見据えた中期的な運営方針として、ビジョン、戦略、事業プランを定め、運営に取り組めます。

ミッション

新たな交流と創造の拠点として、賑わいの創出や、観光と地域文化の振興を図ることで、中心市街地と八戸市全体の活性化を目指します。

ビジョン

将来に達成を目指す具体的な街の姿を、目指す「8つの未来」として掲げます。

戦略

「何に」というテーマと、「どう取り組むか」という取り組みのスタイルを定め、戦略的にビジョンの実現を目指します。

事業プラン

ビジョンや戦略に基づき、取り組む事業イメージをプランとして立てます。これまで取り組んできた事業や運営を見直し、新たな企画に取り組めます。

はっちの新しい挑戦

10年後の私たちの街八戸が、希望に満ちた街であるように、理想とする8つの未来像を描き、その実現のためのさまざまな取り組みを通して、豊かな暮らしのある、しなやかな地域をつくることにチャレンジしていきます。

目指す「8つの未来」



1 活動とコミュニティを豊かに 多様な活動とコミュニティが息づく街

多様な人々によるアクティビティが活き活きとした未来を創ろう。



3 顔の見える経済を大切に 顔の見える経済を大切にする街

地域が主役で、地域が潤う、顔の見える経済が回る未来を創ろう。



5 伝統を未来に受け継ごう 伝統が誇らしく受け継がれる街

先人が築いてきた固有の文化がしっかりと受け継がれる未来を創ろう。



7 緑を豊かに育む 緑を豊かに育む街

潤いをもたらす緑が身近にあふれる未来を創ろう。



2 創造的にチャレンジしよう 創造的なチャレンジに開かれた街

クリエイティブな人が行き交い、新しいコトが起こる未来を創ろう。



4 寛容と共生を価値とする 寛容と共生を価値とする街

異なる文化や価値観を持つ人が尊重し合い暮らす未来を創ろう。



6 子育てを楽しもう 子育てが楽しくなる街

大人も一緒に成長しながら地域で子どもを育てる未来を創ろう。



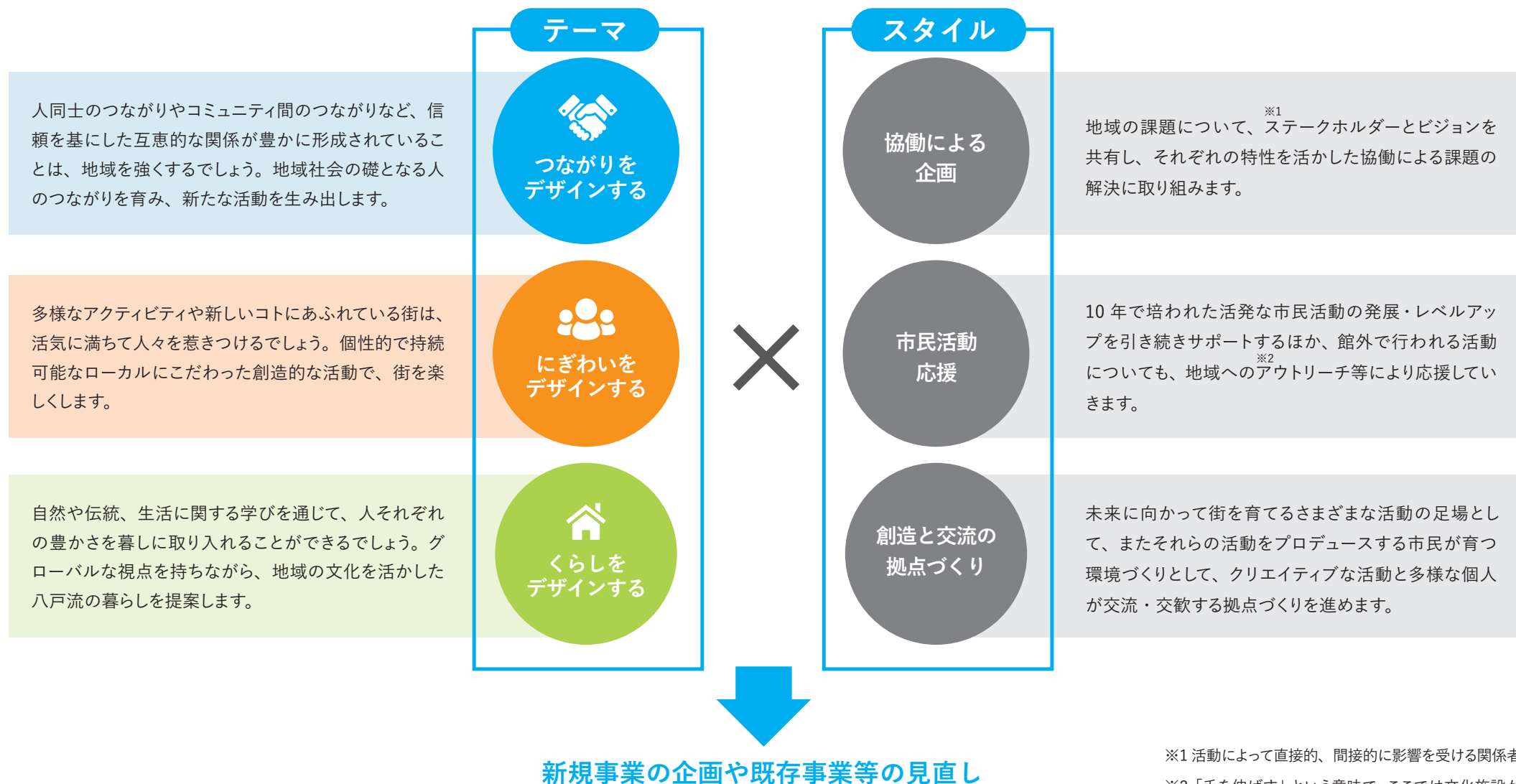
8 情報を活かそう 情報の発信とアクセスに優れた街

メディアを活用した街の情報の受発信で、ヒト・コト・モノがつながる未来を創ろう。

実践テーマと取り組みスタイル ―〈未来を創ろう 2030〉実現のための戦略―

未来の実現のために

相互に関連する「テーマ（主題）」と「スタイル（取り組み）」に基づき、戦略的に事業や施設運営に取り組むことで、「8つの未来」の実現を目指します。



※1 活動によって直接的、間接的に影響を受ける関係者

※2 「手を伸ばす」という意味で、ここでは文化施設が行う館外での文化・芸術活動等を指す。

デザインテーマごとの事業プラン -1



協働
企画

市民活動
応援

創造交流
拠点づくり

- 学校や公民館等の市内各施設、コミュニティ、企業や団体、市民等との連携・協働により、人やコトがつながる仕組みをつくる企画に取り組みます。
- 新たなつながりを生み出すチャレンジを応援し、活動に基づくコミュニティづくりに取り組みます。
- つながりのデザインの拠点機能として方向づける館の機能：マチニワ、カフェ、放送スタジオ、リビング、こどもはっち、観光展示、情報発信など

事業プラン

●アート × 体験 × 仲間プロジェクト

アートの力やコト体験を通して、つながりをつくる取組やそれらつながりを基にした新しい活動を生み出す取り組み。

●「つながりのデザイン」公募企画

「つながり」をテーマとした企画提案を公募し、顕在化していない課題の解決等を目指す取り組み。

●子育てエンjoyプログラム

こどもはっちと連携し、子育ての課題解決等を目指す大人向けの取り組み。

●これまで取り組んできた事業

まちに関心を持ち関与する市民等からなる市民集団「まちぐみ」やボランティアガイドなどの活動について、やりがいを持って参加しやすい環境をつくり、つながりの輪を広げる取り組み。

等



デザインテーマごとの事業プラン-2



- 商店街、農商工生産者、高等教育機関、市民等との連携・協働により、ローカルな経済が潤い、賑わいを生み出す企画に取り組みます。
- クリエイティブな人材との連携による企画や、パフォーミングアーツなどの創造的な活動を応援します。
- 美術館や八戸ブックセンターなど、文化施設との事業連携により相乗効果を創り出し、文化創造の拠点化を図ります。
- 文化創造の拠点機能として方向づける館の機能：シアター、レジデンス、ギャラリー、マチニワなど

事業プラン

●マチナカマーケット

はっち・マチニワの館内外を会場に、作り手の顔の見える定期市等の取り組み。

●パフォーマンスフェスティバル

中心街を会場に、音楽、ダンス、芝居などのパフォーマンスを核としたフェスティバル開催の取り組み。

●レジデンシープログラム

はっちのレジデンスを活用したクリエイティブな人材による創作、アートプロジェクト、研究活動等の機会創出の取り組み。

●これまで取り組んできた事業

はちのへ演劇祭や横丁オンリーユーシアターなどの活動について、支援を充実することにより訴求力を高め、パフォーミングアーツに関わる人材を育てる取り組み。



等

デザインテーマごとの事業プラン -3

くらしを
デザインする



協働
企画

市民活動
応援

創造交流
拠点づくり

■伝統工芸や生活文化、植物などその道のプロフェッショナルとの連携・協働により、[※]グローバルな視点で暮らしをデザインする企画に取り組みます。

■ローカリティ（固有な地域性）に溢れ、暮らしを豊かにする市民活動を応援します。

■暮らしのデザインの拠点機能として方向づける館の機能：ショップ、ものづくりスタジオ、食のスタジオなど

※グローバル（地球規模の）とローカル（地域的な）を掛け合わせた造語で、「地球規模の視野で考え、地域視点で行動する」という考え方

事業プラン

●暮らし学アカデミー

文化芸術、伝統、食、ものづくりなど、暮らしを豊かにする学びの機会をつくる取り組み。



●未来へつなぐ伝統工芸プロジェクト

伝統工芸のブランド力を高めるとともに、身近な生活に取り入れる活動を通して、未来へ継承する取り組み。



●みどりをつくるプロジェクト

地域に適した植物をリサーチし、技術を取り入れ、緑を育てる活動を中心街や地域に広げる取り組み。



●これまで取り組んできた事業

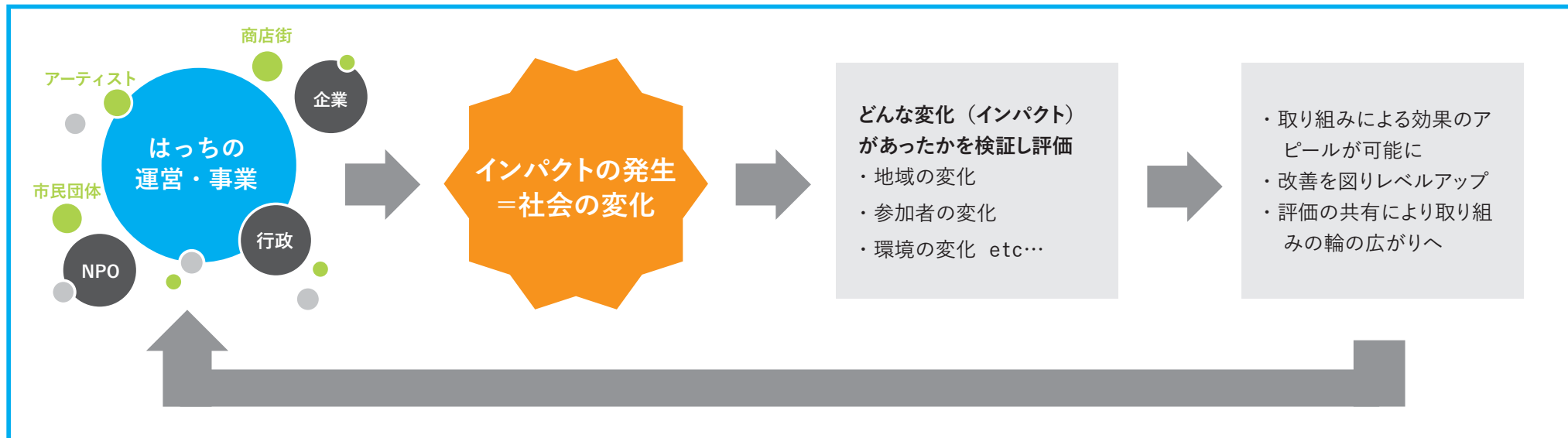
はっち市やものづくりスタジオなどの活動について、暮らしを豊かにするという視点から活動や支援の幅を広げ、磨き上げる取り組み。等



5 評価方法と変化への対応

事業評価の実施

事業の実施によりどのような変化を社会にもたらしたのかを「8つの未来」に沿う形で評価し、その結果をステークホルダーと共有したうえで、事業の内容や取り組みの改善を図ります。



方針の見直し

社会状況や中心街の変化のスピードに対応するため、5年を目途に方針を見直し、2030年の理想の未来を目指します。また、令和3年度に開館が予定されている美術館をはじめ、周辺公共施設との機能分担や事業連携については、本運営方針に取り組みながら、必要な調整を図っていきます。

